

◆実践問題41◆

- 1回目
- 2回目
- 3回目
- 4回目
- 5回目

今は昔、丹波の国に住む者あり。田舎人なれど

も心に情ある者なりけり。それが妻を二人持ちて、

家を並べてなむ住みける。本の妻はその国の人に

てなむありける。それを静かに思ひ、今の妻は京

より迎へたる者にてなむありける。それをば思ひ

増したる様なりければ、本の妻心憂しと思ひてぞ

過ぎしける。

しかる間、秋、北方に、山郷にてありければ、後

の山の方にいとあはれげなる音にて鹿の鳴きけれ

ば、男今の妻の家に居たりける時にて、妻に、こは

いかが聞きたまふかと言ひければ、今の妻、煎物

にてもうまし。焼物にてもうまきやつぞかしと言

ひければ、男心に違ひて、京の者なれば、かやう

のことをば興ずらむとこそ思ひけるに、少し心づ

きなしと思ひて、ただ本の妻の家にきて、男、こ

の鳴きつる鹿の音は聞き給ひつ、かと言ひければ、

本の妻かくなむ言ひける、

われもしかなきてぞ君に恋ひられし

今こそ声をよそにのみ聞け

男これを聞いていみじくあはれと思ひて、本の妻

となむ住みける。